

令和7年度（令和6年度対象）
教育委員会点検・評価報告書

令和8年2月
岡崎市教育委員会

目次

1	点検・評価制度の概要	1
	(1) 点検・評価の趣旨	1
	(2) 点検・評価の方法	1
	(3) 点検・評価を行う者	1
2	業務活動の評価	2
	事務事業評価	2
3	外部評価	5

1 点検・評価制度の概要

(1) 点検・評価の趣旨

平成19年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育事務の点検及び評価等に関する規定が追加されました。

これにより、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うに当たっては、その客観性を確保するため、学識経験者の知見の活用を図ることとされました。

点検・評価の取組みを通じて、さらに効果的な教育行政の推進を図るとともに、その結果を公表し、市民の皆様への説明責任を果たします。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の方法

令和7年度については、岡崎市全体で取り組んでいる事務事業評価の方法に準じて、各事務事業について担当部署が業務活動評価表を用いる手法と、岡崎市学校教育等推進計画にて定めた目標値に対する達成状況を定量的に評価する手法にて点検・評価を実施いたしました。

(3) 点検・評価を行う者

教育委員会では、教育事務の点検・評価の客観性を高め、また学識経験者の知見の活用を図るため、愛知教育大学名誉教授・特別教授で元岡崎市教育委員の土屋武志氏に、選定した5件の業務活動に対し点検・評価を実施していただきました。

2 業務活動の評価

事務事業評価

事務事業評価は、行政活動の基礎的な部分である事務事業に関するデータの把握、評価等を行うことによって、実務の改善や経営資源配分の見直しを図り、事務事業の目標達成度、効率性等をさらに高めていくための取組であり、以下の3点を目的としています。

- ・透明性の高い行政運営

事業の目的を明確にし、投入した予算や人員でどれだけの成果があったかを市民にわかりやすく説明するために行います。

- ・経営資源の有効活用

限られた経営資源（ヒト、モノ、カネ）を最適配分し、その配分された経営資源が最も効率よく行政活動に結びつくようにするために行います。

- ・事業の評価と改善への取組

事業の計画を立て実施するという行政運営の中で、事業の実施結果の内容や実施方法について分析、評価し、次の計画に改善を活かしていくために行います。

① 事務事業評価項目

事務事業評価における評価項目は表1のとおりです。評価対象業務ごとに4段階の評価点を付け、評価の視点単位で平均評価点を算出し、各業務活動の評価をします。評価点が低い部分には改善点等を抱えている可能性があるため、今後の在り方や新たな手法を検討していくことになります。

表1 評価項目表

評価の視点	業務活動の評価項目	評価点			
		1	2	3	4
改善余地	市職員ならではのノウハウが必要である。	1	2	3	4
	民間事業者、市民団体等と連携して行う余地はない。	1	2	3	4
	単純な事務作業や入力作業は少ない。	1	2	3	4
	紙の書類の取扱いは少ない。	1	2	3	4
	庁内外からの電話対応や窓口対応は少ない。	1	2	3	4
	勤務時間内に処理できている。(時間外勤務が少ない。)	1	2	3	4
有効性・効率性	業務内容は市民の権利・生命・財産の保護に直結している。	1	2	3	4
	他業務に優先して行う必要がある。	1	2	3	4
	民間企業等では同様のサービスが提供されていない。	1	2	3	4
	この業務を廃止した場合に市民生活やまちづくりに大きな影響がある。	1	2	3	4

	コストの削減が図られている。	1	2	3	4
リスク管理	業務手順が確立されている。	1	2	3	4
	チェック・確認体制が整っており、かつ、機能している。	1	2	3	4
	業務の進捗状況が管理されている。期限内に業務が完了できている。	1	2	3	4
	部署内で必要な情報が共有されている。	1	2	3	4
	長年解決されていない（あるいは着手されていない）問題はない。	1	2	3	4

4・該当 3・やや該当 2・あまり該当しない 1・非該当

② 評価対象業務

評価対象業務及び平均評価点は表2のとおりとなります。教育委員会として行っている業務の中から主に市の裁量で実施する業務や公の施設の維持管理及び整備業務などで構成されています。

表2 評価対象業務活動一覧

担当課	業務活動名	平均評価点		
		改善余地	有効性・効率性	リスク管理
教育政策課	奨学金関連	2.6	2.7	3.6
	私立高校等授業料補助	2.5	3.0	3.8
	タブレット型情報端末導入	3.6	3.8	3.8
	情報教育推進	3.6	2.6	4.0
	ジュニア版家康公検定実施業務	2.8	2.8	3.2
	中学校遠距離通学対策補助業務	3.1	3.2	3.2
	中学校通学バス運行業務	3.0	3.5	2.8
学校給食センター	岡崎市学校給食協会補助	3.0	3.2	3.6
施設課	小学校附帯施設改修	3.3	3.4	3.0
	中学校附帯施設改修	3.3	3.4	3.0
	美合小学校校舎整備業務	3.1	3.2	3.2
学校指導課	児童生徒・教師用指導書購入	2.5	4.0	2.6
	小学校通学バス運行	2.5	2.6	2.6
	科学技術・理科教育振興	3.0	2.8	3.2

	各種小中学校大会派遣補助	2.6	3.4	3.0
	指導研修	2.6	3.8	4.0
	へき地学びの絆づくり推進	3.1	2.5	3.6
	体育行事活動等推進	2.1	3.7	3.4
	特色ある学校づくり推進	2.8	2.6	3.6
	帰国・外国人児童生徒教育支援	2.8	2.8	3.4
	学校行事实施	3.0	2.8	3.2
	教育研究委託	3.0	3.0	3.2
	学校情報メール配信システム運用	3.1	2.8	3.4
	国際理解教育・英語教育振興	2.8	3.4	3.8
	教育課程研究	3.1	3.2	3.2
	水泳授業支援	2.6	3.2	3.2
	少人数学級実施	2.8	3.4	3.2
総合学習センター	総合学習センター管理運営	3.0	2.6	2.8
少年自然の家	少年自然の家管理運営	2.8	2.0	3.2
教育相談センター	教育相談センター管理運営	2.6	3.4	3.0
	児童生徒健全育成推進	2.8	3.2	3.0
	特別支援教育推進活動	3.0	3.2	3.6
社会教育課	P T A連絡協議会運営費補助	2.8	3.0	4.0
	20歳のつどい開催	2.5	3.0	4.0
	埋蔵文化財調査・整理・報告	2.8	3.8	3.4
	文化財施設等管理	2.8	3.0	3.4
	文化財保護	2.5	3.2	4.0
	家庭教育推進	3.3	3.0	4.0
	学区社会教育委員会運営補助	2.6	3.4	3.8
	社会教育事業指導助言	4.0	3.0	4.0
	社会教育審議会運営	4.0	2.6	4.0
	文化財保存事業費補助	2.6	3.6	4.0
	文化財情報普及啓発	3.6	3.4	4.0
旧本多忠次邸管理運営	3.3	3.0	4.0	

	子ども若者育成支援	2.5	3.4	3.8
	旧本宿村役場管理運営	3.5	3.2	4.0
視聴覚ライブラリー	視聴覚ライブラリー運営	2.8	3.2	3.4
	視聴覚ライブラリー備品整備	3.8	2.6	3.8
	視聴覚事業啓発	3.1	2.4	2.6
	親子映画会開催	3.3	2.8	3.4
	映像制作啓発	3.3	2.8	3.2

③ 評価結果の分布

表3 評価結果（事務事業評価）

（単位：件）

	平均評価点 2.0点以下	平均評価点 2.1点～2.9点	平均評価点 3.0点以上
改善余地	0	25	26
有効性・効率性	1	16	34
リスク管理	0	5	46

平均評価点の分布結果から、2点以下となる業務は少なく、教育委員会の業務活動全般として、適切な改善がなされており、有効性・効率性も確保され、リスク管理も行われているものと考えます。

3 外部評価

今年度は、以下の5件の業務活動に対し、学識経験者から御助言や御意見をいただきました。この御助言等を参考にして、業務の更なる質の向上を図っていきます。

1	業務活動名	プログラミング学習の継続実施と改善	教育政策課
外部評価			
<p>「岡崎市プログラミング学習モデルカリキュラム」の改定は、新教科書へ準拠することを目的としておりますが、加えて子どもたちが使用するタブレット端末にも適用する改定内容であることは、非常に有効な取組であると考えます。</p> <p>カリキュラムの改定等において、業者任せにせず、子どもたちの状況を一番よく知る現場の先生方が取り組んでいることは、定型的なものにならず、とても良いことであると思います。一方で、このような教職員の取組が持続・発展可能なものとなるよう、教職員の多忙化解消に向けた取組（教職員の働き方改革の推進）と両立していくことが非常に重要であると考えます。</p>			

プログラミングフェスタの開催についても、年度ごとの参加人数の推移が右肩上がりであります。岡崎工科高等学校の先生や生徒のブースもあるということで、普段の授業では経験できない多様な学びを体験できる点は評価できます。

プログラミング学習は民間事業者でも注目されています。先生方が知恵を結集して作り上げたカリキュラムは、貴重な岡崎市の知的財産であると考えます。他で勝手に使われないように、著作権について整理されてはいかがでしょうか。行政は公開が前提であるということであれば、カリキュラムを他が使用する際に「岡崎市モデル」と表示させるなど、条件づけることも良いのではないかと考えます。その点は、法務部局と相談されても良いかと思えます。

2	業務活動名	校内フリースクールの拡充	学校指導課
---	-------	--------------	-------

外部評価

校内フリースクール F 組が市立中学校では全学校に設置され、着実に生徒の居場所となり、安心して学校生活を送れているということで、F 組がかなり浸透している状況であることが理解できました。

ここで一番大切なことは、F 組に通う生徒を学校や先生方が受け入れるだけでなく、他の生徒にも浸透しているかということです。合唱コンクールで楽譜の表紙のデザインや、文化祭のブースのポスター制作を F 組の皆にお願いしようと子どもたちから自然に声が上がるということで、他の生徒にもその子はその子でいいという多様性の認識が広まっているのだと実感できました。

学校教育等推進計画では令和 5 年度の間評価時点で既に中学校全 20 校設置を達成し、今年度末の目標値の 15 校を超えています。目標値を既に超えているから、もう進めなくてもよいということではないと思います。F 組の設置によって、F 組の通う生徒だけではなく、他の生徒たちも多様性を意識するようになってきており、その結果、F 組に通う子どもの自身の学びや将来を実現するチャンスが増えているため、さらに取組を推奨していくが望ましいと考えます。

一方、小学校への展開が今後の課題ということですが、小学生の中学年くらいは、他の子との差を意識し始める時期であり、その時期に自分はみんなと違うとか、自分はだめだなと思ってしまい、集団に入りづらくなってしまふことがあると思います。そのような時に、F 組が避難場所のような、自分は自分で、これでいいんだと自信を取り戻してもらおう場となり、子どもたちの意思で自由に行き来できるようになることが望ましいと思います。

教室まで行きづらい子どもたちにとって、学校に教室ではない自分の居場所があ

り、行けば先生がいるということは、とても大切なことであると思います。今後もこの取組を大きく進めてほしいと思います。

3	業務活動名	二十歳のつどい（成人式）の開催	社会教育課
---	-------	-----------------	-------

外部評価

「20歳のつどい」ということですが、もともとは成人式であり、法令上成人としての心構えや、選挙権や、社会的責任といったことを自覚してもらうため、自治体が主導して行っていたものですが、現在は成人が18歳となり、成人の祝いでもなく、成人教育の場という意味付けが薄くなり、現在の形であると、中学校区ごとの同窓会のような位置づけになっているように感じます。

運営は、20歳の実行委員の皆さんが行っているということですので、実行委員の皆さんに、20歳のつどいで何をやりたいかを話し合い、決める場があるとよいと思います。実行委員になった皆さんも市側とともに、目的である郷土に愛着を持てるようにするには、どのような会にしていこうかと考えていただくと、市側にはなかったアイデアが出てくるかもしれません。

実行委員の皆さんは、その中学校区で選ばれた方とのことなので、将来的に地域での市民活動の中核になり得る方たちだと思います。20歳のつどいを通して、未来の社会教育のキーパーソンの発掘ができ、さらにその後のまちづくりにつながることになれば、市にとってもこの取組が社会教育として大きな意味をもつものとなると思います。

20歳のつどいは、有望な若い皆さんが一堂に会する場であり、市としても、将来の市政へのアイデアや担い手を得る貴重な機会であると思います。その皆さんの市民活動のスタートイベントとして意味付け、今後も行えるとよいと考えます。

4	業務活動名	学校施設の計画的な老朽化対策の推進	施設課
---	-------	-------------------	-----

外部評価

教育環境の基盤整備では、特に校舎の整備が非常に重要なものであると考えます。今回の校舎改修では、校舎各部や便所の改修を基本として、普通教室では、木質化や、黒板のホワイトボード化等、今必要な改修を限られた予算の範囲内で、各校標準化されていると理解しています。

一時期トレンドであった、学校施設の開放や、複合施設化についても、市の関係課との協議が進められている段階とのことですが、地域への学校開放という観点においても、例えば、地域の人が使えらる会議室等があってもいいかと思ひます。

計画的に改修を進めるにも、予算確保に苦心されているということですが、校舎改修により教室のクオリティを高められるのは明らかであり、その学校に通う子どもたちのためになると財政当局もしっかり理解した上で予算づけを検討いただきたいと思います。

改修目的も単に老朽化対策といった受身的なものだけではなく、岡崎の教育の基盤を強固にするといったポジティブで積極的な表現をすると、必要さの理解がさらに深まるのではないかと考えます。

未来の岡崎の教育を着実に推進していくためにも、その運営に耐えうる基盤が不可欠です。その基盤づくりのためにも、校舎整備の重要性を今後も訴えて、順調に整備が進むよう取り組んでいただけたらと思います。

5	業務活動名	キャリア教育の充実	学校指導課
外部評価			
義務教育段階のキャリア教育は、児童生徒が自身のキャリアデザインをつくる基礎となるとともに地域と学校との協働活動の基本となるので、市内の企業・団体と引き続き充実するようお進めください。その際、学校任せでなく、協力のための第三者機関を充実させるなど、コロナ後の新しい方法と学習内容を開発することを期待しています。			